



追浜「貝山地下壕」散策 — 今も残る、大戦中の人々の息遣い —



貝山地下壕の場所

- 「貝山地下壕」は、どこにあったのか ⇒現在の「貝山緑地」の地下
(その他、夏島(貝塚)、野島にも地下掩体壕跡が現存)



貝山地下壕 構築の経緯

- 大東亜戦争中、昭和19年(1944年)頃から戦況は悪化し、米国が奪還したグアム・サイパン方面の飛行場から飛来するB29戦略爆撃機や、航空母艦から発艦した艦載機により、本土も度重なる空襲を受けるようになる。
- 「本土決戦」に備えるとともに、全国で戦闘機格納用の掩体壕、また、指揮所、作戦室、軍需倉庫、海軍病院、あるいは人員避退用等に地下壕を構築した。
- 追浜地区においては、航空隊指揮のもと貝山、夏島、野島に地下壕が作られた。



(参考写真)「沖縄 旧海軍司令部壕 司令官室」



(参考写真)「地下壕 電信室(イメージ)」

貝山地下壕をしてみよう



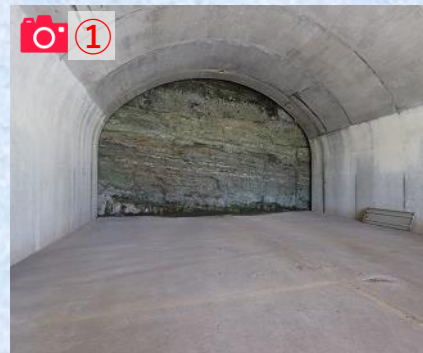
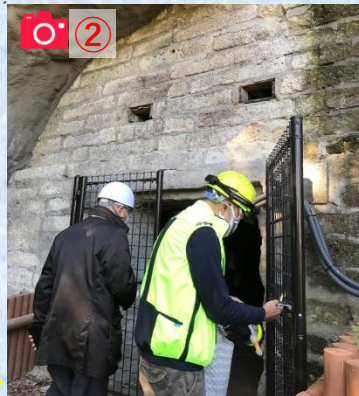
貝山緑地 全景



壕内は、安全上の観点から
非公開の部分があります



地下壕（B地区）入口



〔奥の部分〕
（奥行約40m 高さ約6m）

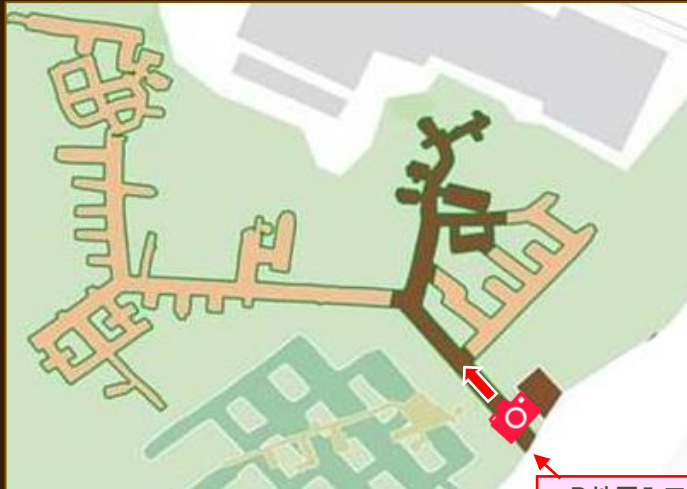


軍需倉庫跡（外側に開口）

〔外側から中を見る〕

貝山地下壕に入ってみよう

入口から入った部分



B地区入口

B地区入口から入り、奥を見たところ
幅4 m、高さ3 m程度あり、かなり
余裕のある空間

(前方の鉄製の櫓は、
安全性を高めるための整備工事個所)



分岐右側の仕切り壁と鉄扉 (枠のみ残存)



分岐部分の右側の仕切り壁

大谷石等で作られた壁の右端に鉄扉がはめられている。(現在は枠のみが残存)

扉のコンクリート枠上部には、3本のハイプ（通信、電気等のケーブル管）跡が確認できる。

仕切り壁を通り、中に進む



この先は、会議室、事務室、
水場跡、カマド、士官舎側か
らの出入り口等続く通路
生活感が出ているエリア

奥へと続く広い坑道



床には、長い間に落ちた浸透水で溝ができています。

通路の両サイドには、排水のための側溝が掘られている。

両サイドの壁に添って、壕全体に等間隔に丸太を立てた穴が有る。補強（矢板を渡す）の跡

回廊となっている部屋



通路右側の、回廊となっている
部屋内部を奥側から見たところ。

この部屋が何に使われていたのか
は不明。

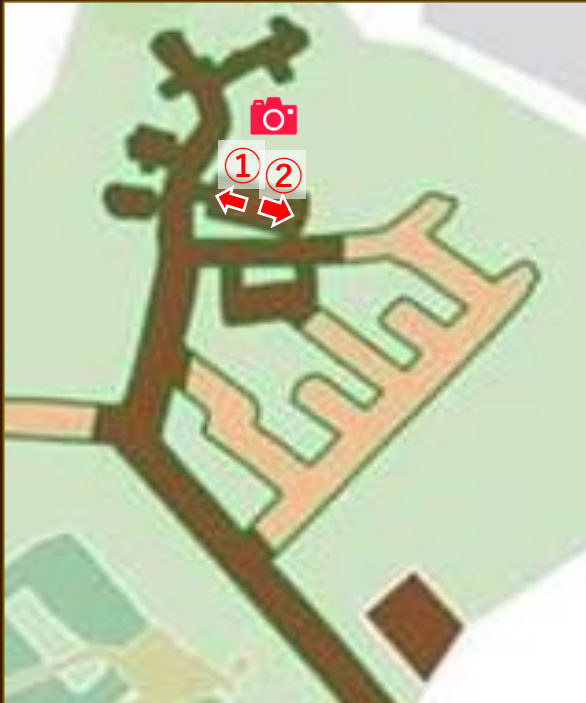
更に、少し曲がりくねった奥へと進む



この通路の床は、土砂が積もって
分かりづらくなっているが、レンガ
道となっている。

この先、右側に見えてくる部屋は、
この壕の中で、一番精巧に掘られ、
「つるはし」で丁寧に成形した跡も
残る。 作戦司令室と思われる。

作戦司令室に入って見よう



作戦司令室と思われる。
いざという際のために、写真①奥の「入り口」には、三重のドア、写真②奥右側にも出口がある。

正面壁には横長の掘り込みが2カ所、中心部のものは、手の届かない高さにあり、常時設置されていたと思われることから、軍人勅語等か



三重のドアが
あった入り口



軍人勅語等が
あったと思われる
掘り込み部分

作戦司令室前の通路には水槽



水 槽

レンガの枠をモルタルで固め、
中央に水道の蛇口跡、露出した
左手に水道管が残る。

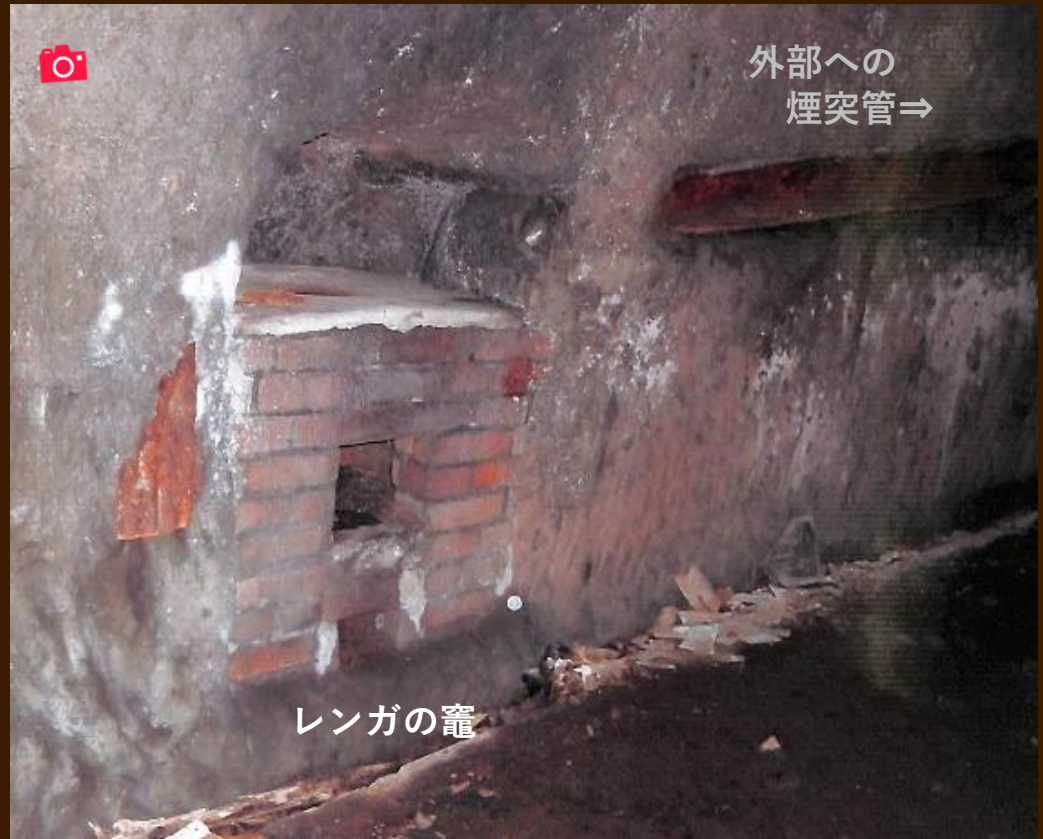
奥側にも外部との出入口



外部(士官宿舎等)からの正規な入口が強固なコンクリートで作られている。

門衛が待機する部屋が左右にあり、入口が残る

一番奥には、竈(カマド)がある



〔竈(カマド)と煙突〕

料理する程のカマドでなく、湯沸かし程度の構造物である。

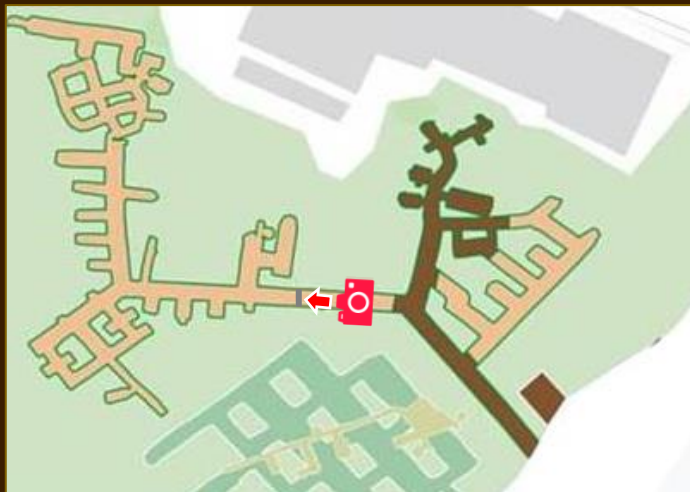
周辺にはトタンを張り補強していた。
(カマド左側に一部残存)

右側に煙突が伸びており、外部へとつながっている

特別に、非公開エリアの一部も見てみよう

[非公開エリア]

左奥側のエリアの仕切り壁と鉄製扉跡



左奥側のエリアの仕切り壁と鉄製扉の跡

この奥は、倉庫群が魚の小骨の様に続く。中には山頂中腹へのコンクリート階段やチェンブロックがある作業場が存在。



調査研究目的のため、許可を得て非公開エリアに立ち入っています。

用途不明の構造物

[非公開エリア]



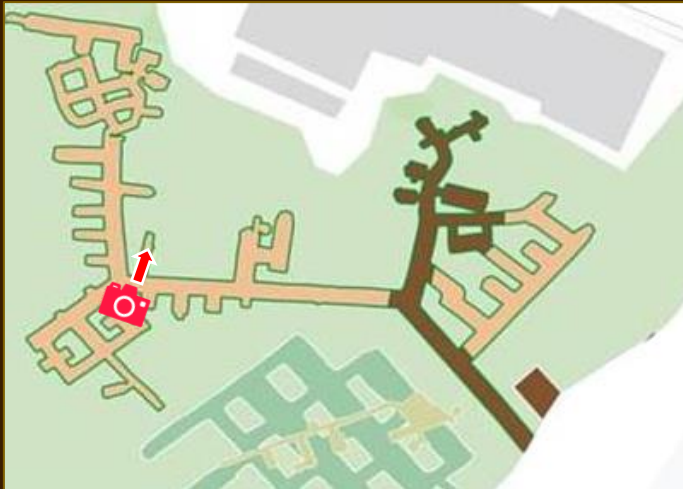
コンクリート製の構造、用途は不明、製作中だったためか、木製の枠板が剥がされず残る。

物資不足か、コンクリートに砂利の露出が目立つ。



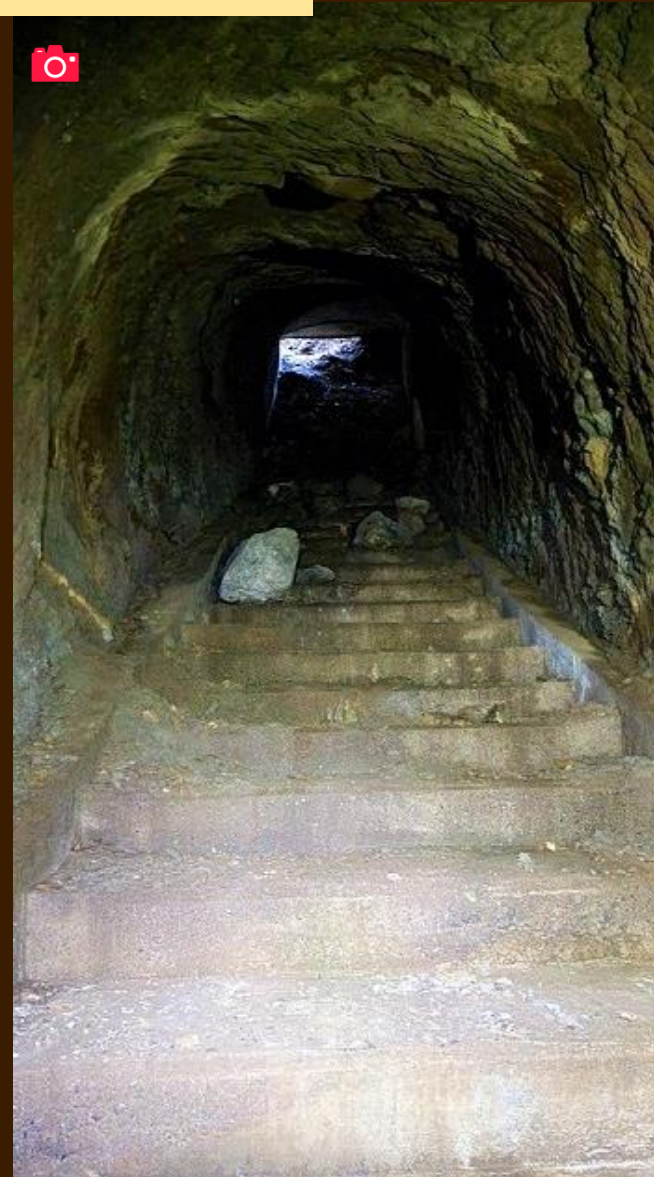
調査研究目的のため、許可を得て非公開エリアに立ち入っています。

外部に通じる階段－ 1



コンクリートの階段、入口は外部の士官宿舎に面した崖の中腹にあり、士官宿舎と関連した通路と考える。

調査研究目的のため、許可を得て非公開エリアに立ち入っています。



外部に通じる階段－ 2



海側の山頂中腹に出る、50段の
海軍特有の急な階段。

山頂の気象観測所に早く行ける
ように作られた可能性が大きい。

調査研究目的のため、許可を得て
非公開エリアに立ち入っています。



貝山地下壕を見学するには

貝山地下壕は、横須賀市により、内部での安全性を高める整備工事が実施されていますが、安全の確保のため、公開は、ガイド付きツアーに限られています。

詳細については、ツアーを実施している横須賀市公認のガイド団体のホームページをご確認ください。

- | | |
|------------------------|---|
| ◆ NPO法人 「アクションおっぱま」 | http://www.action-oppama.org/project/kaiyama/ |
| ◆ NPO法人 「よこすかシティガイド協会」 | http://yokosuka.kankoh-guide.com |
| ◆ 「猿島公園専門ガイド協会」 | https://sarushima-guide.jimdofree.com |
| ◆ 「(株) トライアングル」 | https://www.tryangle-web.com 等 |